

## 大阪・道頓堀を歩く

調べたいことがあり、大阪市立中央図書館に行った。先日もレポートしたように、中之島の大阪府立図書館は大学院時代からよく利用したが、こちらは初めてである。朝は9時15分からであり、9時頃には多くの人々が玄関付近に来ていた。3階の新聞・大阪・地図コーナーを利用した。とくに大阪関係の資料は参考になるものが多い。中央図書館は新大阪から地下鉄で心斎橋まで行き、乗り換えて西長堀で下車すぐにある。

大阪のまちづくりについて話す資料にするために、心斎橋の地下鉄ホームを写真に撮った。1923年に就任した第7代の関一大阪市長は、「住み心地よき都市」の整備に力を入れてきた。梅田から難波まで約4キロの御堂筋を整備したが、その下に建設されたのが地下鉄「御堂筋線」である。心斎橋駅のホームは規模が大きく格調があり、東京の銀座線などと比べても大きな違いがある。



図書館から道頓堀川に向かって歩いた。この境界「堀江」は人気のまちという。川に沿って歩くと、結婚式のセレモニーが行われていた。新郎新婦の行進後に橋の上からの記念撮影である。あとから調べてみると、「キャナルテラス堀江」とあった。道頓堀川と橋をうまく活用した、大阪らしいアイデアに感心した。名古屋でいえば堀川であるが、残念ながら結婚式はなかなかイメージしにくい。



もうすこし歩くと大阪を代表する戎橋に着いた。ここ一帯はいつ行っても大勢の人ばかりである。とくに新装「グリコ」のネオンサインを橋上から、川岸から写真に撮る人が多い。私もいろいろな角度から撮った。「グリコのおまけ」ではないが、とにかく絵になる「看板」だ。



橋を渡ると大きな蟹の看板が見えてくる。この通りは観光客(最近では外国人観光客)が多く、歩くのも大変である。いまや一大「観光スポット」だ。たこ焼きやラーメンなどの店には、長い行列ができています。最近では新世界の串カツ屋も進出してきて、グルメのまちとしても人気が高まっているようだ。「食い倒れ大阪」らしさが残る道頓堀である。

(2014年12月6日)